

落花生の栽培

全国落花生協同組合連合会抜粋

落花生の種の蒔きごろ

落花生の発芽には地温 20℃以上が必要です。低温の土の中に種を蒔いても発芽しません。ですから、一般的には外気温が 25℃を超えることのある 5月中旬～6月にかけて種を蒔きます。

土づくりをしましょう

1 m²当たり 糞 100 g の肥料を蒔きます。 N3 P10 K10 程度 の化成肥料を使います。土壌には 石灰類を 100～150 g 程度まきます。堆肥や腐葉土を使うとなおよいでしょう。深さは 10 cm～15 cm 程度に耕すとよいでしょう。

種まき

種は生で乾いた傷のないものを用意しましょう。皮がむけたり、割れた落花生では発芽しません。種は横向きにし指で 1～2 cm 程度沈め土を掛けるのだそうですが、私たちは、畝幅 80 cm 株間 40 cm で 植え筋を 10 cm 程度さくり、肥料を施し間土し、石油を滲ませた種を 2 粒ずつ蒔き、5 cm～6 cm 程度の土を掛け、その上を鋤等で叩くか、足で踏みつける。(種を土に馴染ませて、毛細管の役をさせるため)

落花生の種は、極端な水を嫌う性質を持っているので、雨降り中とか、雨後直ちには種まきは避けましょう。カラス・鳥類の防護にべた掛けでなく、少し浮いた状態のネットをしましょう。

発芽

種まき後、1 週間～10 日で発芽します。露地栽培の場合は、土壌に水分が蓄積されていますので、水遣りの必要はありません。時たま降る雨で十分です。

除草・追肥・土寄せ

初期に草がでたら除草し、軽く株もとへ土寄せする。40 日程度で黄色い花が朝咲いて昼頃萎みます。このころに 石灰を必要としますので、1 m²当たり 50 g～100 g 程度を株の両面に施し、紐が下りて来るので、台形になるように土寄せする。以降は、紐と一緒に抜けるので除草は避ける。



分枝した枝の周辺に
やや広めに土を寄せてください。